

全国オートバイ協同組合連合会／  
バイクにも定期的な点検整備が必要という話

# 愛車を長く楽しむために 定期点検を受けよう!!

原付、軽二輪、小型二輪車によって、適用される制度が異なるバイク  
それらすべての安全性を向上させるため、各販売店が行なってきた点検整備を  
いままで以上に運用しやすく、さらには日本全国のAJ加盟店ならどこでも  
同じ基準で実施できる仕組みを構築した、全国オートバイ協同組合連合会で聞いた  
定期点検整備から生まれるユーザーメリットとは？



写真はイメージであり、記事中の内容とは関係がありません。



定期点検を実施している店舗には左のようなポスターが掲示されている。個人売買や遠くの販売店からバイクを購入し、点検を受けたいと思っているユーザーは、遠慮なく訪ねてみよう！

幅広くなる。さらに現在は、駐車場の整備が追いついていないにも関わらず施行され、結果、バイクユーザーがシワ寄せを受けることになった二輪車の駐車違反取り締まり緩和や、レスキューサービス機能の付いたクレジットカードの発行、さらには国内の排出ガス基準を世界統一基準にするための運動など、幅広く行なっている。

これまでの活動は、高速道路などにおけるバイク2人乗りの解禁や、大型二輪免許の教習所での教習、マフラーの騒音規制緩和など。

さらに現在、名前の聞いたことがない読者でも、販売店で白地に青文字で描かれたAJのマークを目にしたことがあるのではないだろうか。このマークを追求している団体。AJのマークを追求している団体。AJのマークを追求している団体。

バイク文化の発展に  
大きく寄与する組織

全国約1400社(1800店舗)が会員になっている全国オートバイ協同組合連合会(通称AJ)

## 定期的な点検整備はAJ加盟店で受けよう

その全国オートバイ協同組合連合会における最新の活動が、今年の7月1日より実施されている「AJ定期点検整備制度」の普及である。国土交通省から後援を受けているこの活動は、ひらたく言ってしまうと「すべてのバイクを対象にした定期点検の制度化」。それによって、安全、環境、経済といった3つの面からバイクユーザーの満足度を高めよう、全国の加盟店とともに全国オートバイ協同組合連合会が尽力している。

とはいえ、一言でバイクと表現した場合、原付きから小型自動二輪まで含まれることになる。そのすべてを対象とした場合、販売店は同じでも、原付き自転車には日常点検整備の義務も無いなど、異なるルールで運用されているのが



今回のキャンペーンに合わせて制作された点検整備記録簿と点検整備ステッカー。ほかに伝票タイプの整備記録簿もあり、いずれかを携行することで、車両の信頼性を向上させる。



点検整備を受けた車両に貼付されるステッカーは、3種類。右から、原付用、軽二輪用、小型二輪用となっている。ステッカーが貼付されることで、点検整備済みであること、次回の時期が一目瞭然となる。



全国オートバイ協同組合連合会に加盟する店舗では、左のようなプレートもしくは「AJ」文字を大きくしたプレートが掲げられている。小型二輪の定期点検は、その中でも二輪認証整備工場資格以上の資格を持った加盟店で受けることができる。

イクル、チェック内容なども二元化した。もちろん初回を除けば、点検整備に掛かる費用はユーザー側の負担となり、バイク所有者には出費が増えることになる。しかしながら、その代わりではないけれど、加盟店で点検整備を受けた車両には、前述のステッカーが貼付され、国土交通省の後援を受けた点検整備が施された車両であることを証明。かつ整備記録簿を保管、整備

の経歴が明確になることにより、販売時などに、その車両の信頼度は大きく上がるということになるというわけなのだ。ちよつとした不具合が事故やトラブルに直結するバイクだけに、あらゆる排気量、カテゴリーにおいて実施される信頼性の向上は、オーナーはもちろん、今後、バイクの購入を考えるユーザーにとっても、少ない出費で大きなメリットを生むことになるだろう。

現実。また、定期点検を薦めると、大切な顧客を失うのではないかと、いう販売店側の思惑、さらに定期的な点検整備の義務を定めている道路運送車両法では罰則が無く、そのいっぽうで道路交通法は整備不良車に罰則規定を設けるなど、さまざまな方面のいろいろな事情が絡み合っており、バイクの定期点検制度改革は大幅に遅れてきた。それら事情をまとめることで、すべてのバイクに定期的な点検を実施。既存のユーザーはもちろん新規ユーザーにも長期間に渡ってバイクに慣れ親しみ、楽しんでもらうというのが、この制度の骨子となっている。

気になる話の発端は、「中古で購入したバイクの定期点検を、どこに持って行けば良いのか分からない」、「定期点検はおろか車検まで無い軽二輪(250cc以下)で高

速道路を自動車と同じ速度で走ることに不安を覚える」、「構造上、機能部品のほとんどがむき出しで装着されているバイクは、自動車よりも点検が必要なのでは?」といった現場やユーザーからの意見。インターネットオークションでの個人売買が活発になることもあって顕在化してきた「現状販売」における問題などがあつた。とくにインターネットを使って個人同士で取り引きされる際の「現状販売」は、業者のそれはニュアンスが異なり、大きなトラブルをまねくこともあるという。

そういった諸々の問題を解決する手段として、全国オートバイ協同組合連合会では、国土交通省に働きかけると同時に、販売店が使用する点検整備記録簿と、点検整備済みを証明するステッカーを用意。さらに、実施店舗、点検のサ



今回、お話を伺った方々。右から事務局長：片山進氏、課長補佐 渉外担当：高橋章友氏、事務局事業担当：寛洋氏。全国オートバイ協同組合連合会では、ETCの普及活動を始め、オートバイ駐車場問題、騒音規制など、さまざまな問題に対して、ユーザーやメーカーの目から国や団体に働きかけを行なっている。